

明治の第一・第二水害

昨年、県内に大きな被害を及ぼした西日本豪雨災害から一年が経過しました。水害はこれまで町内にもたびたび被害をもたらしていますが、今回はその中でも特に大きな災害として記録に残されている、明治二五・二六年（一八九二・九三）の水害、いわゆる第一水害・第二水害についてお話しします。

第一水害は、七月二二～二四日にかけての暴風雨で、奥津地域では三日の総雨量は一四〇ミに達し、吉井川・羽出川・香々美川の水量は二丈（約六尺）余りに及び、奥津、羽出、泉、久田、中谷、小田、大野、



東園侍従宿泊の際に田中家に掲げられた木札(下斎原)



洪水記念碑(宗枝)

芳野、郷、院庄、二宮の各村の堤防は決壊し、山崩れや道路破壊、家屋の流失・浸水など大きな被害がありました。長藤の友保資一郎は、この時一四歳で、後にこの水害の時の状況を記録していますが、これによると、二三日夜に自宅に土砂が流入し、

「流れる牛の悲鳴、灯なき暗夜、老祖父母弟と四人は取り敢えず板間二階へ避難せしが、父母の消息不明、大石のぶち当たる音、その凄惨たるや名状しがたく…」と臨場感あふれる筆致で表現しています。結局、翌朝父母は無事で嬉し泣きで再会することができましたが、自宅は「土砂

は台所・囲炉裏の間・板間の線を基幹として床上約五尺（一・五尺）を積み、泥水はその上を滔々として貫流せり…」と大きな被害状況であったことを物語っています。中谷村では、家屋流出一六戸、半壊・床上浸水四二戸のほか五名の死者が出たといえます。

この水害が県内に及ぼした被害は甚大で、八月二六日に明治天皇の侍従・東園基愛が被災状況視察のため来県し、三十一日には榎野村（現真庭市余野）より富仲間・富東谷・富西谷の被災地を巡視、富西谷の押阪義道宅に宿泊して翌一日は泉村へ向け出発、二日には久田や長藤の状況を視察し、下斎原の田中家に宿泊したよう、田中家にはこの時、家の前に掲げられた「東園侍従御旅館」と書かれた木札が現在でも残されています。

そして、まだこの災害の傷跡も癒えない翌年一〇月一四日、またも暴風雨による水害で県下に大きな被害をもたらしました（第二水害）。第一水害は吉井川・旭川流域、第二水害は高

梁川流域の被害が大きかったといわれますが、鏡野町域の被害は富村の堤防決壊九カ所をはじめ、またも各村の堤防決壊や土砂崩れは多数に及び、奥津村では家屋流失一六戸、その他各地の田畑や家屋の浸水、復旧工事中の橋梁や道路が再び損壊し、羽出村では第一水害で流失した小学校の校舎を新築するための用材がすべて流失するなど、またしても町域内全域に大きな被害を与えました。

前年に続く水害は、田畑や建物だけでなく、人々の心にも大きなダメージを与えたことでしょう。宗枝にはこのような未曾有の大災害を子孫にも伝えるべく、第一・第二水害の被災状況を克明に記録した「洪水記念碑」が明治三六年（一九〇三）に建てられています。

この時期になると、昨年の豪雨被害が頭をよぎってしまいましたが、今年には大きな災害がなく、穏やかに過ごせることを心から祈りたいですね。

参考：『岡山県郡治誌』『鏡野町史』『奥津町史』『富村史』『鏡野の歴史』『鏡野町の石造物』

生涯学習課 日下

電話(0868)54-7733